

新居浜の

産業遺産物語

物語⑨

旧別子鉱山鉄道

端出場鉄橋・端出場隧道

(国登録有形文化財)



「端出場鉄橋及び隧道」(明治31年別子鉱山写真帳) 別子銅山記念館所蔵



端出場鉄橋を渡る観光列車「別子1号」(マイントピア別子)

マイントピア別子で観光列車「別子1号」に乗ると、赤色の鉄橋(端出場鉄橋)と赤レンガのトンネル(端出場隧道)を通過します。どちらも、明治26年(1893) 別子鉱山鉄道の開通にあわせて建造されました。

端出場鉄橋は足谷川鉄橋、打除鉄橋とも呼ばれる延長39mの鉄橋で、河岸に対して約60度斜めに設置されています。別子銅山の鉄道技師である小川東吾が設計し、ドイツのハーコート社製のピントラス橋です。ちなみに小川は、のちに箱根鉄道(湯本・強羅間)を建設したことも知られます。

端出場隧道は、中尾トンネルとも呼ばれる延長93mのトンネルです。レンガ造の坑門はアーチ部や側壁は長手積み、ピラスター(付柱)はイギリス積みです。

竣工後130年以上経過した現在に、往時の姿を伝える別子銅山の産業遺産ですが、観光鉄道の橋・トンネルとして現役施設でもあります。

別子銅山文化遺産課 ☎ 65 - 1236

広告欄